

# 浜田駅周辺グランドデザイン策定に向けたヒアリング結果概要 (中間報告)

## 1 ヒアリングの概要

浜田駅周辺グランドデザイン策定にあたり、商店街関係者、飲食事業者、不動産事業者、観光関係者、創業支援機関、文化団体、教育関係者などを対象にヒアリングを実施した。

ヒアリングでは、駅周辺や中心市街地の現状認識、課題、活性化の可能性、将来像等について意見を伺った。

＜ヒアリング期間＞ 令和8年5月25日～28日、6月8日～12日

＜ヒアリング実施＞ 33者

## 2 主な意見

### (1) 駅周辺・中心市街地の現状認識

#### 【主な意見】

- ・かつて駅前や商店街は商業機能や交流機能の中心であったが、人口減少や郊外化により来街者が減少している。
- ・商店街では店舗の住宅化や倉庫化が進み、まちに開かれた空間が減少している。
- ・空き店舗に見えても、荷物の残置や老朽化などにより、すぐに活用できない物件が多い。
- ・宿泊者は一定数存在するが、観光客よりも出張・長期滞在者が多い。
- ・駅前に降り立っても滞在できる場所や過ごせる場所が少ない。

#### 【ヒアリングから見える傾向】

駅周辺や市街地は、一定の都市機能を維持しているものの、人が歩き回り滞在する空間としての魅力が弱くなっているとの認識が多く見られた。また、銀天街については、「夜のまち」というイメージが強く、昼の滞在機能が不足していることが指摘された。

### (2) 空き店舗・不動産活用

#### 【主な意見】

- ・空き店舗活用の最大の課題は所有者との調整である。
- ・貸したい意思はあっても片付けや改修費用が負担となっているケースが多い。
- ・若者や創業者が挑戦できる安価な物件が不足している。
- ・不動産情報を集約し、活用可能な物件を見える化する必要がある。

### 【ヒアリングから見える傾向】

空き店舗は量的不足というよりも、流通・活用の仕組み不足が課題との意見が多く見られた。

### (3) 創業・小商いの可能性

#### 【主な意見】

- ・飲食店に加え、習い事、教育、体験型サービスなどに可能性がある。
- ・副業や小規模事業など「小商い」が増えている。
- ・創業者が試験的に出店できる場が求められている。
- ・若い世代が挑戦しやすい環境づくりが重要である。

### 【ヒアリングから見える傾向】

小規模・分散型の創業や副業を支援する環境整備が求められている。

### (4) 食・観光コンテンツの活用

#### 【主な意見】

- ・観光客は、魚介類や赤天など浜田らしい食を求めているが、駅周辺では浜田が魚のまちということが伝わっていない。
- ・水産資源が観光消費へ十分につながっていない。
- ・郊外の魅力的な飲食店や料理人を駅前に呼び込む仕組みが有効ではないか。
- ・観光客が宿泊し、夜の消費につながる仕掛けが必要である。

### 【ヒアリングから見える傾向】

食は浜田最大の強みの一つであり、駅前を地域の食文化の入口として活用する可能性が示された。

### (5) 石見神楽・歴史文化資源の活用

#### 【主な意見】

- ・神楽の集客力は高いが、駅前で神楽に触れられる機会が少ない。
- ・神楽を飲食や交流と組み合わせるべき。
- ・浜田には港町、城下町、軍都などの歴史があるが、発信が十分でない。

### 【ヒアリングから見える傾向】

石見神楽は、浜田市にとって大きな地域資源である。駅周辺で神楽を観ることができ、更に食・観光・歴史と組み合わせた活用が期待されている。

### (6) 三桜酒造跡地への期待

#### 【主な意見】

- ・イベント、交流、文化の発信、チャレンジの場など柔軟な空間が望ましい。

- ・キッチンカー、屋台、市場などが定期的開催される場にしてほしい。
- ・雨天でも利用可能な空間が必要である。
- ・市民や観光客がともに利用でき、くつろげる空間であってほしい。
- ・駅周辺の各施設をつなぐ場所にしてほしい。

#### 【ヒアリングから見える傾向】

三桜酒造跡地は、様々な用途に使うことができ、日常的にくつろげる空間としての活用が期待されている。

### (7) 教育・人材育成

#### 【主な意見】

- ・子どもや若者が地域で学び、活動できる場が必要である。
- ・趣味、ものづくり、eスポーツ、プログラミング等を通じた人材育成に可能性がある。
- ・高校生や大学生が地域活動に関わる機会を増やすべきである。
- ・地域の魅力を発見し発信する教育にも意義がある。

#### 【ヒアリングから見える傾向】

人づくりとまちづくりを一体的に進める視点が多くの関係者から示された。

## 3 総括

ヒアリングでは、

「食」

「神楽」

「歴史・文化」

「創業・小商い」

「教育・人材育成」

「交流・イベント」

を組み合わせながら、駅前・商店街に人が集い、滞在し、小さな挑戦もできる場として再生していく方向性が示された。

また、大規模な再開発よりも、既存ストックの活用や小さな挑戦の積み重ねによる段階的な活性化を期待する意見が多く見られた。

今後は、これらの意見を踏まえながら、引き続き、ヒアリングを重ねつつ、グランドデザインの検討を進めていく。